

⑨ 深沢幼稚園 1951(S26)～

深沢幼稚園前園長吉沢栄子の娘・葉子さんによると深沢幼稚園(寺分 1-15-4)は横浜で戦災にあった荒木新六が鎌倉深沢へ移ってきたことから始まった。そのころの深沢は畑や田んぼがいっぱいあった。

話し上手の新六は知人からの要請を受け、1951年幼稚園を開園し、53(S28)年長女の栄子が後を継ぎ、新六は裏方に回った。当初栄子の夫で、音声生理学の研究者である吉沢典男が園長になり、後に栄子が務めた。

6人の園児からスタートしたが、400人を受け入れた時もあり、その時は抽選を余儀なくされた。85(S60)年学校法人吉沢学園 深沢幼稚園となった。



幼稚園バス 1960年頃

園の教育方針は、本物でしっかり心に響く経験をするという事を大切にし、体育・音楽・絵画・造形など専門の

先生を迎えた。職員一同常に研修をし、幼児教育の研鑽を重ねた。

運動会やクリスマス会では家族総出で、職員らと共に用意し、手作り満載の楽しい催しだった。



1962頃 運動会「ヨーイドン」

栄子が幼稚園経営のため銀行に融資を頼んだ時、「女には貸せない」と言われたり、園舎が火災にあたりもした。しかし子供が大好きな栄子は親と離れられない園児や、園バスの来ないところに住む園児を迎えに行ったりして、子供や親たちが楽しい幼稚園生活を送れるよう全力を尽くした。

2008(H20)年、経営母体が変わり「幼保連携型認定こども園 アワーキッズ鎌倉 (深沢幼稚園)」となった。22(R4)年園舎を新築し、法人名を学校法人湘南深沢学園と変更した。



認定こども園とは

親の就労形態の変化、少子化などにより小学校就学前の子供の教育・保育に対するニーズも大きく変化してきた。

「就学前の子供に関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」(平成18年法律第77号)が平成18年6月公布され、同10月から認定こども園制度がスタートした。令和5年4月から保育園と認定こども園はこども家庭庁の管轄になり、幼稚園は従来通り文部科学省の管轄である。

認定こども園は教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さをあわせもっている施設。

- ①就学前の子供に幼児教育・保育を提供する機能
- ②地域における子育て支援を行う機能

幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型がある。

認定基準を満たす施設は都道府県等から認定を受けることができる。